

第2回 横浜市鶴見区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 議事録	
日 時	令和8年3月24日(火) 午後2時00分から3時30分まで
開 催 場 所	鶴見区役所6階9号会議室
出 席 者	<p>【選定委員会委員】 委員長 峯尾 武巳 (特定非営利活動法人介護の会まつなみ理事長 元神奈川県立保健福祉大学 社会福祉学科教授)</p> <p>委員 【常任委員】 石井 キヨ子 (鶴見区社会福祉協議会ボランティア分科会会長) 祝出 真紀子 (鶴見区地域子育て支援拠点「わっくんひろば」施設長) 斉藤 達之 (鶴見区地域活動ホーム「幹」施設長) 鈴木 利彦 (鶴見区老人クラブ連合会副会長) 堀野 美奈子 (中小企業診断士) 本間 忠志 (鶴見事業者連絡会“つばさねっと”会長) 皆川 慈保 (鶴見区民生委員・児童委員協議会会長)</p> <p>【臨時委員】 早野 幹夫 (鶴見中央地区自治連合会会長) 木佐美 信行 (豊岡地区連合町内会会長)</p> <p>【事務局】 鶴見区福祉保健センター長 岩田 慶隆 鶴見区福祉保健センター担当部長 黒川 正人 鶴見区福祉保健課長 高橋 陽子 鶴見区高齢・障害支援課長 宇佐美 高司 鶴見区福祉保健課事業企画担当係長 高菱 純平 鶴見区福祉保健課事業企画担当 加藤 彩夏</p>
欠 席 者	なし
開 催 形 態	一部非公開(応募団体の面接及び質疑応答は、面接審査を受けている団体以外の応募団体を除き公開)(傍聴者2人)
議 題	1 応募団体の面接審査 (1) 事前確認事項 (2) 応募団体によるプレゼンテーション及び面接審査 (3) 前期実績報告書、財務状況評価の説明 2 指定候補者の選定、講評
決 定 事 項	指定候補者及び次点候補者として、次のとおり、横浜市鶴見区長に報告することとする。 1 横浜市鶴見中央地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人横浜 YMCA 福祉会

	次点候補者：なし
議 事	<p>1 応募団体によるプレゼンテーション及び面接審査</p> <p>(1) 事前確認事項</p> <p>事務局から、公募の結果1団体から応募書類の提出があった旨を報告するとともに、次の3点について確認した。</p> <p>○委員会の公開・非公開</p> <p>応募団体審査、指定候補者及び次点候補者の選定に関する審議について非公開とすることを確認。(第1回委員会で審議済み)</p> <p>※なお、応募団体の面接(プレゼンテーション及びヒアリング)は、面接審査を受けている団体以外の応募団体を除き公開。</p> <p>○面接審査の進め方及び質問項目の確認 (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接審査の全体の流れ、質疑応答の流れ、最終審査の流れについて説明。 ・1施設に対して1団体のみ応募となっている施設については、最低制限基準に満たない場合は、再選定を行う旨を再確認した。 ・1施設に対して複数の応募がある施設についても、最低制限基準に満たない場合は、再選定を行う旨を再確認した。 <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリング時の質問項目を確認した。 <p>○応募団体の資格要件等について (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格要件について、「暴力団又は暴力団経営支配人等ではないこと」に関して、神奈川県警に照会した結果、該当しないとの回答を受けた旨や市税納付状況等の確認を行った結果、資格要件を満たしている旨を報告。 ・欠格事由に該当しないことを報告。 <p>(2) 応募団体によるプレゼンテーション及び面接審査</p> <p>ア 横浜市鶴見中央地域ケアプラザ</p> <p>(ア) プレゼンテーション</p> <p>団体から、団体の概要、事業計画等について説明</p> <p>(イ) 主な質疑応答</p> <p>(委員) 地域のイベントなどで、現役世代がつながる機会はあるか。</p> <p>(団体) 現在、地区社協とボランティア支援グループの取組を進めており、近隣の小学校・中学校・高校に対して活動内容を案内している。中学生も約10名が参加を希望しており、主な活動の入口としてはケ</p>

	<p>アプラザまつりへの参加がある。子どもたちが自らブースを作り、活躍する場を設けており、そこへ保護者も参加し、ボランティア活動を進めている状況である。</p> <p>(委員) 「小さなつぶやきを大事にする」とは、大人のつぶやきも含んでいるのか。</p> <p>(団体) 子どもでも大人でも、困りごとはあるため、幅広く声を拾い上げている。例えば、ケアプラザを利用する際に「どのような施設であれば来たいと思うか」を子どもに尋ねたり、保護者には「どのようなおもちゃがあればよいか」「どのような環境なら来やすいか」などを伺っている。そうした小さな声を職員間で共有し、次の取組につなげている。</p> <p>(委員) 障がい者支援の取組として、「障がい福祉サービスの65歳問題」や「精神障がい相談」に注力する背景と、具体的な対応について伺いたい。</p> <p>(団体) 障がい福祉サービスは手厚く、利用時間も長いですが、65歳になると介護保険に移行し、利用時間が制限される。その落差に戸惑う声が障害・高齢双方の事業所から寄せられている。今後も基幹相談支援センターと連携し、落差をどのように埋めるかについて日々のカンファレンス等で情報共有しながら、丁寧に対応していきたいと考えている。実際にこの件についての相談件数もかなり増加している実感がある。</p> <p>(委員) 生活支援ボランティアの育成に向けた具体的な取組について伺いたい。</p> <p>(団体) 生活支援を担うボランティアも高齢化が進んでいる。今後は、男性向け料理教室などを開催し、例えば退職後の60代男性など比較的時間に余裕のある層にも参加してもらい、地域活動への参加につなげていきたい。まずは、その世代が参加したくなるような仕掛けをつくり、つながりをつくることで地域活動への参画を促していきたいと考えている。</p> <p>(委員) 移動支援について、特に豊岡地区は坂が多く、福祉施設のデイサービスの車を利用されているとのことだが、具体的な支援内容はどのようなものか。</p> <p>(団体) 過去に有料老人ホームの見学会を実施した際、デイサービスの車両を活用し、参加者を送迎した実績がある。その実績を生かし、外出したいが車椅子で移動が難しい場合や、ケアプラザに行きたいが移動手段がない場合などに、デイサービスのドライバーが運転し、職員が添乗して無料で送迎する取組を進めている。活動に参加し、充実感を得た上で帰宅できるよう、様々な移動支援の方法を検討して</p>
--	--

いる。

- (委員) 地域ケア会議でどんな地域課題を扱っているかについて伺いたい。
- (団体) 昨年度は地域ケア会議を5回実施した。若年性認知症の方の権利擁護や、金銭管理の課題がある方、居場所づくりなどについて検討を進めた。例えば、金銭管理の課題については、一人暮らしで金銭の管理が難しい方たちがどのようなサポートを望んでいるかを、民生委員も呼びながら検討を進めた。
- (委員) 財務状況を見させていただいたが、非常に利益率が高く、財務基盤が安定していて素晴らしい状況。運営上の工夫があれば伺いたい。
- (団体) 鶴見中央地域ケアプラザと同フロアにあるデイサービスは公設ではなく民設民営であり、当法人が運営している。その介護保険事業の収入を確保するため、デイサービス利用者の確保に向けた営業活動を重点的に取り組んでいる。他のデイサービスにはない特色を出すため、例えばジムの要素を取り入れた足漕ぎの機器やボールなどを活用し、インターネットで情報収集しながら多様なプログラムを提供している。
- (委員) 令和5年・6年に外国籍住民に対してアプローチした事業実績があるが、その成果を教えてほしい。
- (団体) 外国籍住民は今後増加すると見込んでいるが、国際交流ラウンジと連携を進めている。介護支援者が外国の方と接する経験が少ないことから、ケアマネジャー向けに「やさしい日本語」を学ぶ機会をつくった。今後も国際交流ラウンジとの連携を強化し、外国籍住民の居場所づくりをケアプラザで進め、ケアプラザの存在を周知し、日本の支援者と顔の見える関係を構築していくことを考えている。日本の高齢者と同じように、外国の高齢者に対しても、「困ったときにケアプラザで介護の相談ができますよ」と周知を展開していきたい。その地盤としての関係づくりが、この2～3年で整ってきた。
- (委員) 外国にルーツのある方の高齢化が進んでいるということか。
- (団体) 現在鶴見区では20代、30代が多いが、今後は60代、70代の相談が増加すると見込んでいる。
- (委員) 地域の特性として、マンションが多い。マンションにおける見守りの課題と効果的な対策があれば伺いたい。
- (団体) オートロックマンションでは住民同士のつながりが生まれにくい。そのため、地域の会館でサロンのような居場所づくりを展開していきたいと考えている。現在実施されている多世代交流サロン「みんなの会」には毎月40名程度の方にご参加いただいている。今後は地域の自治会館など身近な場所で、マンション内でつながりにくい住民の方にも興味を持っていただけるような内容でサロン活動を

展開できるよう取り組んでいく。

(委員) 父親支援など、何か子育てに関するビジョンはあるか。

(団体) 当法人は保育園も運営しているため、音楽やリトミック、お話会など、親子が参加したくなるような活動を定期的で開催している。地域の子どもや保護者が気軽に参加できるイベントを企画し、未就園児の参加率向上を図っていきたいと考えている。

(3) 前期実績報告書、財務状況評価の説明

事務局より前期実績報告書について説明。

堀野委員より財務分析結果報告書について説明。

2 指定管理者の候補者の選定、講評

応募団体から提出された応募書類及びプレゼンテーション等をもとに評価を行い、各委員の評価結果を集計する。

(1) 横浜市鶴見中央地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点/満点	最低制限基準 得点/基準点
指定候補者	社会福祉法人横浜 YMCA 福社会	2,092/2,680 点	1,880/1,392 点
次点候補者	応募団体が 1 団体のみ のため、該当なし	-	-

(審査講評) 指定候補者 (社会福祉法人横浜 YMCA 福社会)

- ・小さな声の拾い上げなど、利用者目線に立った丁寧な運営が評価できる。
- ・障がい福祉の 65 歳問題や移動支援、外国籍住民対応など、多様な地域課題に対して関係機関と連携しながら柔軟に対応している。
- ・ボランティアの高齢化への対応など今後の課題もあるが、参加のきっかけづくりに工夫が見られる。

指定候補者の得点は、最低制限基準を満たしているため、選定委員会として横浜 YMCA 福社会を指定候補者として選定することを決定する。

資 料
特 記 事 項

1 資料

- (1) 第 2 回選定委員会タイムスケジュール
- (2) 評価基準及び審査方法について
- (3) 横浜市鶴見区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会委員名簿
- (4) 横浜市鶴見区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会運営要綱
- (5) 横浜市鶴見区地域ケアプラザの指定管理者の候補者の選定等に関する要綱

2 特記事項

特になし

